

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 101 号 2025 年夏号

2025 年 6 月 1 日発行

深田んぼでの田植えはやっぱり大変です



田んぼが深いので「つかまり竹」を使いながらの田植えです

3月の定例活動日に稲株踏み、4月は畔廻りの草取りを行い元肥（バイオ有機肥料）散布しました。ゴールデンウィーク前半に田んぼ内の草取り、板均し（代掻き）を行い、4日朝に藤心ライスセンターから苗を引き取りました。会の田植えは5日「子供の日」に25人参加で賑やかに行われ、残りを6日と11日で終わらせました。うるち苗は千葉県産の「コシヒカリ」です。（小笠原 智）

ビオトープの田植えに参加して

稲株踏みの為に初めて田んぼに入る時、「深いし足を取られるよ」とアドバイスを頂いていましたが、想像をはるかに超えて大変でした。でも楽しさも想像以上でした！苗はラインをガイドにして植えていくことを知り、昔からの知恵は素晴らしいなあと思うと同時になかなか真っすぐに植えることができませんでした。どの位の深さまで植えるかの感覚も難しかったです。普通では出来ない経験をさせて頂きありがとうございました。すくすくとお米に育っていく過程が楽しみです。

（荒井 聖）

私にとって47年ぶりの田植えでした。苗を持った感触、泥の中に足を入れる感触、参加の皆様の笑い声、全てがまるで子供の頃に戻った様でした。手植えで苗を丁寧に植える事で稲への愛着を改めて感じる事が出来ました。今回の田植えを通して自然との繋がりや地域の方々との絆を深めることが出来たと感じます。秋の収穫までには作業はまだ大変ですが、収穫が今から待ち遠しいです。

（小谷 千満樹）

名戸小の田植え「田植え、楽しかったー」

5月8日、名戸小5年生3クラスの児童がビオトープ田んぼで田植を体験しました。開始前にビオトープ田んぼでの植え方と注意事項を聞いて田んぼに入りましたが、思ったより深いので最初は足を入れるのも恐々のようでした。それでも植え始めると楽しくなっ

てどんどん進んで、予定時間より早く終わりました。手足や半ズボンは泥んこだらけ、手押しポンプやシャワーでの泥落とし洗い場は大賑わいでした。今年は多くのお母様方が見届けてくれました。植えた稲はもち苗で、皇居で陛下が植えている品種と同じ「満月」です。



名戸小児童たちの感想が届きました

名戸ヶ谷小学校より

☆5年1組

- ・田んぼは、最初入った時とっても冷たくて、こけみたいのがいっぱいあって入るのが少し嫌だったけど、ずっといたら慣れてきて、田植えをするときもみんなで協力して植えられてとっても楽しかったです。今度は稲刈りもあるのでみんなで楽しくやりたいです。次やるときを楽しみにしています。とってもいい思い出になりました。
- ・農家さん達が大変な作業を一生懸命やっていて、これをしているお陰でお米を食べられている自然のありがたさを知りました。泥で足や手、服などが汚れたりしたけど、お米が育つには大切なことだと改めて実感しました！本当にありがとうございました。
- ・ビオトープでの感想は、おじいさんたちが私達にわかりやすく教えてくれたことです。そのおかげで、おじいさんたちにすごくほめられてとても嬉しかったです。それは、おじいさんたちが教えてくれたことなのに、自分達が考えたことみたいに褒めてくれたことを今でも覚えています。私の心の中では一つのいい思い出ができました。心に残りました。

☆5年2組

- ・虫やカエルが怖かったけれど、自然や生態系を維持していくにはこのような場所が必要だなと思いました。またお米に関する色々な体験もさせていただけるようなので今後も通ってみたいと思います。これからもビオトープを保護していきたいと思いました。
- ・田植え体験を通して米の大切さがわかり、そして生きもののために（虫など）暮らしやすい環境を作っていると言うのがすごく心に残りました。楽しかったです。
- ・田植え体験をして、お米を作るにはこんなに大変なことを知りました。この体験をいろんな人に伝えたいです！
- ・最初は、あんまり足を汚したくなかったですけど、やってみて意外と楽しかったです。最近日本の米が少なくて悲しかったですが、日本の力になれた気がして嬉しかったです。素敵な体験ありがとうございました。また、やりたいです！

☆5年3組

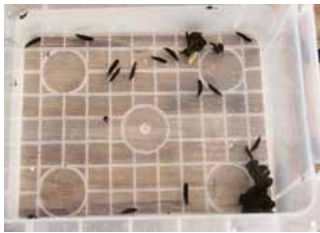
- ・自然（生きもの）と触れ合えたり、苗を植えるときまっすぐに植えることが難しかったけれど斜めになってしまった時、直したりしながら植えるのが楽しかったです。
- ・稲を入れるのが楽しかったです。泥にハマったりしたけどいい思い出になりました。また、やりたいです。次はもっと上手くできるようになりたいです。
- ・転んだけど田植えをしている人は、とても大変だったことをしていると知りました。転んでとても嫌だったけど、楽しい体験をさせてもらって嬉しかった。
- ・いい体験、そしていい思い出になりました。
- ・初めてお米の苗を植えてみて農家さんの大変さやどのように苗を植えるのかがわかり、いい体験をさせてもらいました。その体験を将来に活かせるといいなと思いました。

ヘイケボタル幼虫の放流

4月20日(日) 曇り 気温 20度

月例活動日で会員家族 19 名が参加。松清氏から放流前にヘイケボタルの生態について詳しい説明と、会員からの質疑応答などがありました。そして昨年から飼育したヘイケボタル幼虫約 100 匹をホタル水路に放流しました。

放流は今年限りで来年以降はありません。地域のヘイケボタルの数が減っており採卵が難しいとの事です。無事に生き延びて、6月ビオトープ生まれの仲間との発光を期待したいと思います。(藤平 三郎)



ヘイケボタル幼虫 約 100 匹



松清氏からホタルの説明



ホタル水路へ放流

春の生きものの観察会

5月25日(日)10:00～11:00 曇り 気温 17℃

雨上がりで肌寒い春の観察会でした。今回は久しぶりに親子連れの市民 18 名、会員家族 12 名の参加で大変盛り上がりしました。掲示板、名戸小への案内等によるものと思います。始めに松清氏よりビオトープについてや注意事項の説明を行い、引き続き参加者が捕獲網を持って駆け巡り、生きものを捕獲しました。

アメリカザリガニ、オタマジャクシ、ドジョウ、カダヤシ、シュレーゲルアオガエル、

ニホンアカガエル、ミスジマイマイ(カタツムリ)、カワニナなどです。陽差しがないのでトンボやチョウの飛翔は全く見られず残念でしたがツバメが低空飛行で飛んでいる虫を捕食していました。捕獲した生きものの説明や特定外来種の詳しい解説、質問などを参加者は熱心に聞いていました。終了後に捕獲した生きものを元の場所へ放しました。次回は9月です。(藤平 三郎)



松清氏からビオトープの説明



← 三角池で捕獲中 →



木道沿いを観察中



松清氏から捕獲した生きものの説明

ビオトープで再発見・海を渡ってきた花たち

田圃に咲く花たちの多くは、実は、海外から渡来してきたものです。

明治以降に入ってきた帰化植物もありますが、それ以外に、大昔に日本に渡ってきた「史前帰化植物」と呼ばれているものが数多くあります。

昔から「春の七草」と呼ばれている植物がありますが、その中で純粋に日本在来の植物はセリの1種だけと言われていて、残りは史前帰化植物などの外来植物です。

春の田圃で咲く花は、その昔、野菜と共にアジア大陸から欧州にかけての温帯から入ってきた植物が主体です。

夏から秋にかけて咲く花は、稲と一緒に南方の熱い地域から渡ってきたものがほとんどです。



春に咲く ノミノフスマ



春に咲く タネツケバナ



夏から秋に咲く コナギ



夏から秋に咲く イボクサ

一時、ビオトープで大繁茂していたコナギは稲に随伴して入ってきた史前帰化植物です。コナギは田圃の生態に強く結びついていて、そのため田圃以外の湿地に出てゆこうとしません。

史前帰化植物にはこうした傾向を持ったものも少なからずあります。（佐々木 光正）

植え直しも大変です

田植え後は田んぼ全面に水を張ります。植え直しは歯抜け、列から脱線、浮き上がり、本数の過不足を見極めての作業なので大変です。畔に立って現状を理解して直し方を考えてから入ります。カルガモの踏み倒しもあるので、田植え時の2～3倍の時間を要します。腰には苗入れ箱を付けての作業です。児童達の植えた田んぼは今年も村岡さん、藤本さんに応援を頂きました。ありがとうございました。会員が植えた田んぼも定例活動日等に植え直しを行っています。(小笠原 智)



村岡さんと藤本さんが線替わりに竹竿を基準にして植え直ししています

旧木村邸倉庫をお借りしました

猛暑や突然の雨などの時、会員が休憩、避難する屋内がありませんでした。今回、旧木村邸倉庫の借用をお願いし、了解を頂きました。出入口には網戸扉を設置、東側の扉横にも網戸を設けて風通しを確保しました。中に机を配置して打ち合わせもできます。又、影

山（清）さんに「置き床」を製作して頂き、タイルカーペット敷きで横になれるスペースも設定しています。照明は太陽光パネルによる充電式蓄電池で確保しています。木村様、ありがとうございます。(小笠原 智)



照明点灯時の倉庫内部の状況



倉庫内休憩所

月例活動状況の報告（3月から5月まで）

3月23日（日）当初3月16日が雨天延期

朝から快晴で気温もぐんと上がり、5月並みの陽気となり汗ばむほどでした。

作業は田んぼの稲株踏みと A ゾーン南西側の水路周辺の草刈り、そして伐採されたヤナギの小分けをチェンソーで切断。稲株踏みは田んぼ 4 枚終了し、残り 3 枚は来月です。多くの参加により手際よく終え、ビオトープだより 2025 春号の配布もしました。



田んぼの稲株踏み



A ゾーン南西側水路周辺の草刈り



チェンソーでヤナギの切断

4月20日（日）

初夏の陽気で南風が爽やかに吹いていました。作業開始前に、松清さんが飼育されたヘイケボタル幼虫、約 100 匹をホタル水路へ放流しました。放流は今年限りで来年以降はありません。作業は前回残った田んぼ 3 枚の稲株踏みと肥料撒き、木村家、南側歩道沿いと中央市道沿いの草刈り、そしてザリガニ釣り場のヨシの刈り取りでした。



田んぼの稲株踏み



田んぼへ肥料散布



木村家南側 歩道沿い草刈り

5月18日（日）

夏の気温となり湿度も 80% と蒸し暑く、熱中症に注意して行いました。作業は会員が植えたうるち苗の植え直しで、歯抜けや曲がりを見直ししました。名戸小の植えた田んぼは前日までに藤本さん、村岡さん、小笠原さんで完了しています。草刈り清掃はホタル水路脇周辺、B ゾーン木道脇、ザリガニ釣り場、木村邸前市道（回生の里横迄）を行いました。

終えて、休憩歓談しながら名戸小児童 71 名から届いた感想文を会員の皆さんがしっかり読んで微笑んでいました。（藤平 三郎）



もち田 苗の植え直し



ホタル水路脇の草刈り



ザリガニ釣り場木道沿い草刈り



今年の干支です
 ビオトープの守護神「アオダイショウ」です



ホソミイトンボ



トンボ池

6～8月の活動予定

- 6月15日： 定例活動日（田の草取り、Bゾーン・休耕田草刈り）
 7月20日： 定例活動日（外来種の草、ガマ等の草刈り、稲への追肥散布）
 8月17日： 各所の草刈り 【8月10日（日）雀除けネット掛け】

注）詳細の日時・作業内容はグループメールにて連絡します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）

「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷記念病院前」下車

面積：約 4,400 m²

湿性植物：53 種 生きもの：133 種

（2024 年、年間を通じて観察した種類）



<https://nadogaya-biotope.com/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会

発行責任者：小笠原 智